

ベトナム 数10億ドル規模の儲かる輸入果実市場

[Vietnamnet Global](#) 2024年6月10日

消費者の嗜好を満たすために、ベトナムは果実と野菜の輸入に年間約20億米ドルを費やしており、その大部分は中国からのものである。では、ベトナム市場へのこの流入が特に多いのはどの果実だろうか？

輸入果実は、伝統的な市場からオンラインプラットフォームまで広がり、主要なスーパーマーケットに行き渡るなどいたるところにあって、国産品よりも目立っている。注目されるのは、高級果実と並んで、多くの品種が輸入され、競争力のある価格や、むしろ最低の価格で販売されているものもあることだ。

税関総局のデータによると、ベトナムは国内の需要を満たすため、2024年は5月中旬までに7億2,560万米ドル相当の果実と野菜を輸入した。2023年の果実と野菜の輸入額は合計19億6千万米ドルであった。

中国はベトナムへの主要供給国であり、中国からの輸入額は7億9,470万米ドルで総輸入額の40.5%を占めている。米国が3億3,150万米ドル、オーストラリアが1億4,240万米ドルで続いている。

品目別ではリンゴが最も多く、2023年の輸入総額は2億3,710万米ドルで、果実の総輸入額の21.8%を占めている。リンゴは一年中輸入され、様々な品種があり、原産国によって価格が安いものから過度に高いものまである。

リンゴに次いで、ブドウが1億5,840万米ドルで総輸入額の14.6%を占め、2番目に多く輸入されている果実である。3位はミカン類、4位はナシで、それぞれ全体の7.1%と5%を占めている。

これらの果実は主に中国産で、その手頃な価格で市場に溢れている。特にブドウは、米国やオーストラリアといった従来からの供給国だけでなく、栽培面積を大幅に拡大している中国からも輸入され国内に氾濫している。

業界のある専門家は、輸入量は市場の需要に左右されると指摘している。ベトナムに輸入される果実は通常、国内の生産能力を超えるものや、ベトナムが競争上の優位性を欠いているものである。

例えば、ベトナム産のリンゴやザクロは栽培上の課題に直面しており、輸入を余儀なくされている。同様に、ブドウやナシは産地があるものの、国内生産量は依然として限られており、国内の消費ニーズを満たすために輸入に頼っている。

生産量の多い中国産の低価格果実が圧倒的に多いことが、リンゴ、ブドウ、ミカン類及びナシがベトナムに一貫して流入している理由を説明している。

執筆者: タム・アン